

群 教 セ	G14 - 01
	平14.209集

疑似インタビュー画面を取り入れた マルチメディア資料集の作成

－ 総合的な学習の時間における課題設定に視点を当てて －

特別研修員 静野 孝夫 （群馬町立堤ヶ岡小学校）

《研究の概要》

本研究では、総合的な学習の時間「私たちにできるボランティア」において地域の実態を理解し、相手の立場に立った課題設定ができることを目指して本マルチメディア資料集を作成した。本マルチメディア資料集においては、地域の施設取材したビデオ映像を細く分類し、自分の興味関心に沿って見ることで疑似インタビュー画面を作成するなど、地域の方々の思いや願いが伝わりやすくわかりやすい工夫した。

【キーワード：総合的な学習 - 小 地域教材 福祉 ボランティア Web ページ】

主題設定の理由

平成10年12月に告示された小学校学習指導要領の総合的な学習の時間のねらいとして、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることと、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることが示されている。そして、その配慮事項として体験的な学習を取り入れることが示されている。

また、平成14年7月には中央教育審議会から、「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」(答申)として学校現場において「奉仕活動・体験活動」を教育計画に位置付け、豊かな人間性や社会性などを培うことの必要性などが示された。

本校の5年生では総合的な学習の時間において「私たちにできるボランティア」という単元を設定し、人と人が触れ合う体験的な活動を通して「思いやりの心を育て、助け合うことの大切さを知り、共に学びともに生きることの喜びを味わうことができるようにする」ことを目標に学習をすすめている。児童は自分なりの課題を持って学習し、活動を通して施設で働いたり施設を利用したりしている方々の思いを感じ取ることができた。しかし、「自分からお年寄りに話しかけられず逆に話しかけてもらってしまった」、「幼稚園の子と一緒に遊ぼうとしたけれどできなかった」という感想に現れているように、実際の活動場面で消極的になったり傍観者のようになったりして、思いや願いを十分に生かすことができなかった児童も多く見られた。

その要因の一つとして児童が課題を持つ段階において書籍やパンフレットを通して調べ、知識を得ることはできても、活動先にいる方々の思いや願いの理解が十分でなかったことが考えられる。要因の二つ目としては児童が活動をする段階において本校が大規模校であるため、体験的な活動ができる場が不足しており、活動の繰り返しができず反省を生かすににくかったことが考えられる。

そこで、一つ目の要因については書籍やパンフレットなどの既存の資料を読むだけでなく、ビデオに登場している町内のボランティアにかかわる方々に、あたかも直接インタビューしているような雰囲気や、コンピュータ画面上に作り出し（疑似インタビュー画面）、施設で働いたり施設を利用したりしている方々の思いや願いを理解しやすくすることによって改善できる

と考える。また、二つ目の要因については、新たな活動の場を開拓するとともに、これまでに実施した本校児童のボランティア活動の様子を、児童の実践を記録したビデオや写真を通して知ることができるようにすることによって改善できると考える。

以上のことから、町内のボランティアにかかわる方々の話を疑似インタビュー画面で視聴したり、これまでの自校の取組をビデオや写真で構成し児童が興味関心に応じて調べたりすることができるマルチメディア資料集を作成すれば、既存の資料に本マルチメディア資料集を加えて利用することによって、相手の立場を理解した課題を持つことができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間「私たちにできるボランティア」において、児童一人一人が、相手の立場を理解した上で課題を設定し、具体的な活動目標を立てて学習に取り組むことができるよう、疑似インタビュー画面や自校の活動の振り返り場面を取り入れたマルチメディア資料集を作成する。

研究の見通し

児童が、ビデオに登場しているボランティアにかかわる方々に、疑似インタビュー画面を通してインタビューをすれば、施設で働いている方々や施設を利用している方々の思いや願いが理解できるであろう。

児童が、自己の課題に沿って、これまでの本校児童の取組の様子を、ビデオや写真で見ることができるようにすれば、自己の課題の改善点や工夫する点に気づき、一人一人が具体的な課題を設定できるであろう。

一場面が一内容になるよう取材したビデオを分析、再構成し、各内容に対応した質問項目を設定して Web ページ形式で作成すれば、疑似インタビュー画面を作ることができるであろう。

研究の内容

1 資料集の概要

(1) 基本的な考え方

総合的な学習「私たちにできるボランティア」を進めるに当たって、相手の立場を理解して適切な課題を設定したり、自校の取組を振り返り具体的な課題を設定したりすることを支援するために、以下の点を工夫して本マルチメディア資料集を作成する。

ア 取材に当たって

児童の実態を理解している方の考えが聞けるよう本校や他校の児童生徒との交流経験のある施設を取材し、施設の様子、施設で働く方や利用する方の思い、小学生がボランティアとして参加することについての考えなどを取材し、ビデオに収録する。ここでは細かな質問を準備する方法も考えられるが、話したいこととインタビューすることが食い違い、思いが伝わりにくいことが予想されるので自由に語ってもらうことにする。

イ 疑似インタビューについて

取材したビデオを分析し、一つの内容について一つのシーンになるよう編集し、その一つ一つの内容が答えとなるような質問項目を設定する。また、1シーンが余り長くないこ

とを目標とする。全体をそのまま見せる方法もあるが、見る者は受け身になりがちになる。自分から働きかけ自分の知りたいことを調べることができるよう細かな内容に分けた。

編集した場面は、その内容に応じて分類・系統化し、児童の興味関心や目的に沿ってクリックだけで見ることができるようにし、ビデオに出て説明している人と見ている児童とが画面を介してインタビューに近い雰囲気をつくる。

ウ 自校の取組について

これまでの自校の取組を写真や動画で分類・整理しておき、自分たちが活動する際の具体的なイメージを持ちやすいようにする。

エ 使用環境や画面デザインについて

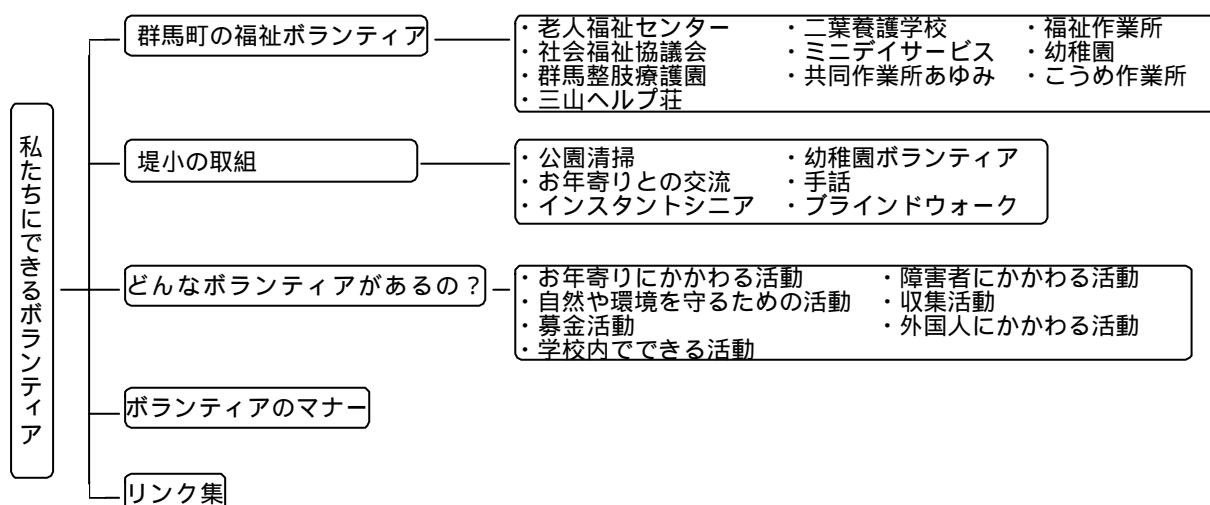
Web ブラウザは、ほとんどのコンピュータにインストールされており、児童がマウス操作のみで簡単にマルチメディアを表示できる機能を持っていることから、HTML で資料集を作成する。

資料の収集に当たっては目的によって画像、音声、動画等、メディアの形式を変える。なお、動画再生環境としては、Microsoft Internet Explorer は Ver.5.5 以降、Windows Media Player は Ver.7.1以降がインストールされている必要がある。

関連ページにすぐに移動できるよう、項目名だけでなく文中の語句にもリンクページを設定し、児童が今調べたいことを見つけやすいようにする。

ページの内容が一目で把握しやすいよう、スクロールせずに内容全体を見ることができるようにしたり装飾を控えめにしたりする。

(2) マルチメディア資料集「私たちにできるボランティア」の構成



(3) 「疑似インタビュー」作成の流れ

ビデオの分析と編集は次の手順で行った。

ビデオを1画面1内容とするために、内容ごとに細かく分割する(表1)。

類似した内容を1シーンにまとめる。その際、ビデオのデータ量を少なくすることと、Web ブラウザ上で WindowsMediaPlayer を用いて見ることができるようにするために、ファイル形式は wmv 形式にする。また、内容が理解しやすいよう、1シーンは余り長くないようにする。

それぞれの画面に対応する質問項目を設定する。

表1 取材ビデオ分類表

分割 番号	老人福祉センター	秒数
1	自己紹介	5
2	無料利用券	20
3	券を持って利用	5
	(中 略)	
63	碁を打つ	15
64	中学生と囲碁将棋大会	15
	(中 略)	
92	実施困難	17
93	少人数でデイサービスへ	7
94	デイサービス風景1	31
95	デイサービス風景2	6

各シーンを分類し、系統立てて再構成し、Web 画面上に質問項目とセットにして表示できるようにする（図 1）。例えば、図 1 右下の「Q お年寄り喜んでくれますか？」のシーンは表 1 の 63、64、94 の内容とお年寄りへのインタビュー音声とを一つにしたものである。

質問項目をクリックするとビデオ画像がスタートするように設定する（図 2）。

ビデオ映像が終了すると新たな質問項目が現れるよう、ビデオの長さに合わせて質問項目を表示するまでの時間を設定する（図 3）。

繰り返し説明を聞くことができるよう、切りかえ後にも同じ位置に同じビデオ画面が現れ、マウスをロールオーバーさせるとビデオがスタートするように設定する（図 3）。



表 1 の 63、64、95 を合わせたシーン

図 1 質問画面構成図

```

<HTML>
<HEAD>
<TITLE></TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<TABLEwidth="526">
  <TBODY>
    ~ ~ ~ ( 中略 ) ~ ~ ~
    <TR>
      <TDwidth="131"></TD>
      <TDwidth="167"><imgborder="0"dynsrc="kokohasagyouusyosa.wmv"start="mouseover"></TD>
      <TDalign="center"valign="bottom"width="192"></TD>
    </TR>
  </TBODY>
  ~ ~ ~ ( 中略 ) ~ ~ ~
</BODY>
</HTML>

```

図 2 Webページソース

```

<HTML>
<HEAD>
  ( 10 秒後に移動 )
<TITLE></TITLE>
<METAHTTP-EQUIV="refresh"CONTENT="10;URL=aisatusa.htm">
</HEAD>
<BODY>
<TABLEwidth="526">
  <TBODY>
    ~ ~ ~ ( 中略 ) ~ ~ ~
    <TR>
      <TDwidth="131"></TD>
      <TDwidth="167"><imgborder="0"dynsrc="kokohasagyouusyosa.wmv"start="fileopen"></TD>
      <TDalign="center"valign="bottom"width="192"></TD>
    </TR>
  </TBODY>
</TABLE>
</BODY>
</HTML>

```

図 3 Webページソース

2 マルチメディア資料集の内容

(1) トップページ

資料集のCDをセットすると自動的にトップ画面が表示される(図4)。トップ画面の副題は小学生の活動として無理なく地域に根ざした活動ができるよう「身近なことから始めよう」という言葉にし、目にとまるようエフェクトを加えて画面上で動くようにした。

画面の中には5つの項目が設定しており、項目名をクリックするとそれぞれの内容に移動できる。

(2) 群馬町の福祉・ボランティア

町内の福祉関連施設を地図上に配置することによって自校からの位置関係や、町内にいろいろな福祉関連の施設があることを視覚的にとらえられるようにしてある。

施設名及び地図上の番号をクリックすると移動できるようクリックابلマップ(図5)にしてある。移動先のページには施設の写真や概略説明などをのせてある。

また、そのうちの6つの施設についてはビデオが準備しており、見たい項目名をクリックするとそのビデオ



図 4 トップページ



図 5 クリックابلマップ

オ（図6）を見ることができる。

ビデオの内容は種類別に分類・系統化され疑似インタビュー形式で、児童の興味関心に沿って調べ学習ができるようにしてある。インタビューの項目は大分類（緑の文字）と小分類（青の文字）に分かれており、それをクリックするとビデオで回答が視聴できる。

ビデオが終了すると自動的に次のページに移動し、ビデオ映像だけだった画面に質問項目が現れるようになっている（図7）。

インタビューを終了する場合は、赤の文字の「ありがとうございました、地図に戻ります。」をクリックする。

質問項目の表現には、インタビューらしさが現れる言葉遣いになるよう配慮した。

（3） 堤ヶ岡小学校の取組

体験の機会が少ない児童に擬似的活動の体験ができるよう設定した。

項目別にメニューにしてあり、活動の様子や活動した場所をクリックすると関連ページに移動できるようにした。

活動の様子のページ（図8）には活動の様子を写した画像があり、ページによってはクリックするとビデオ画像も見られるようになっている。また、児童の感想も文字で表示してある。

活動した場所をクリックすると群馬町の福祉・ボランティアのページに移動できるようになっている。

（4） どんなボランティアがあるの

ボランティア活動をお年寄りにかかわる活動、障害者にかかわる活動、外国の人にかかわる活動、収集活動、募金活動、自然や環境を守るための活動の6つのジャンルに分類してあり、各ジャンル名をクリックすると移動できる。

移動した先には小学生に実行可能であると思われる具体的な活動の例が挙げてあり、活動内容を決定する時参考となるページになっている。

（5） ボランティアのマナー

ボランティア活動の心構えがクイズ形式のっており、児童が興味を持って心構えを理解できるようになっている（図5）。

「よい」、「わるい」をクリックすると正解又は不正解のページに移動するようになっている。また、正誤のページへの移動の際には効果音や賞賛の画像を入れて児童の学習意欲が高まるようにした。正解の場合にはその理由を一般的な内容で説明してあり、ボランティ

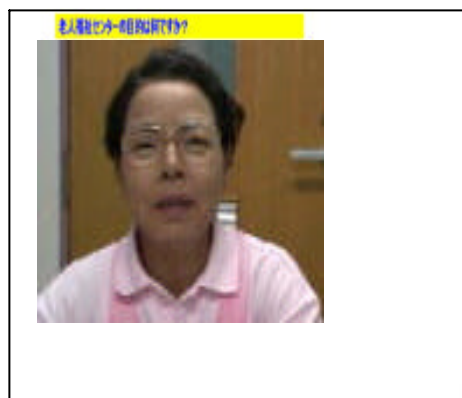


図6 ビデオのみの画面



図7 質問項目付きの画面



図8 活動の様子

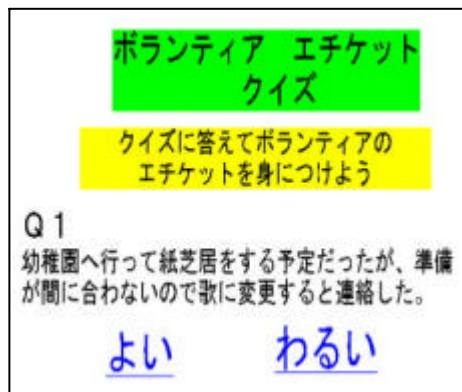


図9 ボランティアのマナー

ア活動の心構えについての理解が深まるようにしてある。次の問題へのボタンを押すとクイズを続けることができる。間違えた場合には元の問題に戻りやり直しができる。

最後の問題まで正解した場合は、免許皆伝のメッセージと賞賛の効果音が流れる。

(6) リンク集

児童にとってボランティア活動の今を調べることができる Web ページを紹介している。児童が理解しやすいように「キッズgoo」を通して漢字にルビを入れて表示されるようにした。

3 授業実践とその結果

(1) 授業実践

単元名 「私たちにできるボランティア」

対象 小学校5年生

ねらい 人と人が触れ合う体験的な活動を通して、思いやりの心を育て、助け合うことの大切さを知り、共に学びともに生きることの喜びを味わう。

(2) 指導計画（全40時間程度）

学習段階	時間	学 習 内 容
気づく	2	・ 総合的な学習集中実践「私たちにできるボランティア」についてのオリエンテーションを通して、これからの学習のねらいをつかむとともに見通しを持つ。
	3	・ 校内ボランティアの方の話を聞いたり、一緒に活動してみることを通してボランティアについての理解を深める。
	4	・ 地域でボランティア活動をしている方々の話を聞いたり、一緒に活動してみることを通してボランティアについての理解を深める。
	3	・ 車いす、ブラインドウォークの疑似体験を通して、障害を持つ方や介助する方双方の気持ちを考える。
考える	2	・ 講演や疑似体験活動をもとにするとともに本マルチメディア資料集を利用して自分の課題を決定する。（本時は2時間目）
	6	・ 自分の課題について、先方の様子、自分のできること、方法等について本マルチメディア資料集、図書、新聞、インターネット等を使って具体的に調べる。
	4	・ ボランティア活動計画をたてる
行動する	8	・ ボランティア活動をする
広める	8	・ まとめる、発表する

(3) 本マルチメディア資料集を使った授業の内容

ねらい

- ・ 地域で福祉にかかわる活動をしている方々の思いや願いを理解することによって、相手のことを考えた自己の課題を設定することができる。
- ・ 堤小のこれまでの取組を見ることによって、具体的なボランティア活動のイメージをつかみ、主体的に課題設定ができる。

準備 課題決定ワークシート（図10）、活動記録表（図11）、マルチメディア資料集「私たちにできるボランティア」

課 程	学 習 活 動	教 師 の 活 動	留 意 点
つ か む	コンピュータを起動する。 本時のねらいを知る	コンピュータを起動させる。 二人一組でコンピュータを使用させる。 学習のねらいを告げる。	早く来た児童にコンピュータを起動させる。 課題の内容が近い者でグループを作る。 ねらいを忘れないようワークシートに印刷しておく。 CD-ROM の取扱い方、資料集の使い方、ワークシートの使い方について、プロジェクターを使って説明する。
	ねらい 資料集を見て、活動先の方々の思いや願いを理解したり、堤小のこれまでの取組を見て、自分の課題を深める。		
	資料集の使い方を知る	資料集の使い方を説明する。 ワークシートを配り記入の仕方について説明する。	
調 べ る	資料集の「群馬町の福祉ボランティア」と「堤ヶ岡小学校の取組」のコーナーを調べながら自分の課題を深める。	机間支援 ・資料集やコンピュータの使い方、資料集の内容等についての説明。	調べてわかったことや思ったことをワークシートにメモしながら見るようにさせる。
ま と め る	今の私の課題を記入する。 活動記録表に記入する。 ワークシートを提出する。	授業後の課題を記入するよう指示する。 活動記録表に記入するよう指示する。 ワークシートを集める。	メモなどを基にじっくり考えさせる。

課題決定ワークシート	
名前 ()	
ねらい	
資料集を見て、活動先の方々の思いや願いを理解したり、細心のこれまでの取組を見て、自分の課題を深めよう。	
私の課題	
資料集で調べてわかったことや思ったことを書こう	
・本当にやりたいことだろうか？ () ・本当に必要なことだろうか？ () ・ひとの迷惑にならないだろうか？ () ・実現可能なことだろうか？ () ・８０時間取り組めることだろうか？ ()	
今の私の課題	
のために をする	

図10 ワークシート

[illegible]

圖11 活動記錄表

(4) 結果と考察

ア 疑似インタビューを取り入れたことにより、施設で働いている方々や利用している方々の思いや願いが理解できたか

授業後のアンケート（表2）から多くの児童はそこで働いている方々や利用している方々が大変な中でも一生懸命活動している様子を理解し、それをふまえて、相手の立場に立って活動をしていきたいという目当てを持つことができた。そして、資料集を使って初めての感想から自分の興味関心に沿って主体的に学習に取り組んでいたことがわかる。

また、始めは「お年寄りを介助したい」という課題を持っていた児童Aは、群馬町の福祉・ボランティアのコーナーを視聴後「お年寄りを介助するだけではなく折り紙などをして交流をしたい」という課題になった。「何かをしてあげる」という発想からの課題から、「相手の立場や気持ちを考えた」課題へと変わった（図11）。

これらのことから、疑似インタビューを取り入れたことは、児童が地域の施設で活動する方々の思いや願いを理解し、活動の目当てをつかむのに有効であったと考えられる。

しかし、コンピュータを交代で使っていたので少しあわただしい面があった。

イ 自校のこれまでの取組を見て具体的な課題を設定できたか

自校の取組についてのコーナーが「参考になった」、「少し参考になった」を合わせると86%になった（図13）。授業後のアンケート（表3）から昨年度の取組を見て交流の様子や活動の留意点を理解し、それらを参考にして主体的に活動の目当てを設定していることがわかる。

参考にならなかったと答えた児童は、「見たいことが出ていなかった」という感想を書いていた。しかし、自分の課題と関係がなさそうに見える部分にも活動の参考

表2 群馬町の福祉・ボランティアを調べて（自由記述）

1	どんな気持ちで伝わったか ・大変だけど頑張っていること。 ・障害があっても一生懸命やっているなと思いました。 ・働いている人の頑張っている気持ち。 ・お年寄りを大切にしている。 ・高齢者のお世話は大変だなと思った。 ・小さい子のために大変だけど頑張っていること。 など
2	どんな活動をしていきたいか ・一生懸命総合の活動をしたい。 ・障害者の人たちの気持ちを考えながら活動したい。 ・一生懸命にやっている人の気持ちを考えながらやりたい。 ・働いている人や通っている人の気持ちを大切にしたい。 ・障害を持った人をちょっとでもいいから助けたい。 ・目の見えない人のために一生懸命活動したい。 ・小さい子が喜んでくれるように活動したい。 ・お年寄りのことを考えて活動したい。 ・相手のことを考えて活動したい。 ・自分も楽しく相手も楽しいボランティア。 ・いろいろな人と接しながら活動したい。 ・真剣な気持ちでお年寄りに接したい。 ・お年寄りに会ってみたい、話をしてみたい、手伝いをしてみたい。 ・自分も人の気持ちを思って行動したい。 など
3	資料集を使って初めての感想 ・自分の興味あるところなので飽きなかった。 ・自分の知りたい事を早くくわしく見られるので良かった。 ・その人の気持ちがわかる。 など

5年 3組 名前()		11月11日
はじめ	お年寄りを介助したい。	
今	お年寄りを介助するだけではなく折り紙などをして交流したい。	
課題をかえた理由		<p>介助だけでもいいかもしれない。たいてい、それだけだとどうも寂しい人が出てくる。介助の必要ではない健康な人、私はそんな人だともう、お年寄りに先生が作ったパソコンのを見てお年寄り生き生きしているのを見て私はいいなと思った。私もこんなボランティアをしたいなと思った。</p>
月/日	活動内容	感想
11/11	課題づくりと発表づくり	自分ではあまり好きでなかった課題でも先生も、とじがりとあわててしまっ

図12 児童Aの課題の変容

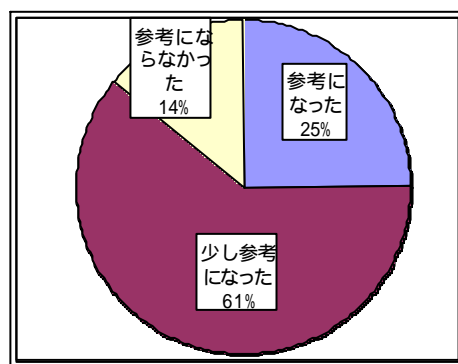


図13 これまでの取組を見て

になる部分はあった。資料を利用する際には多角的な資料の見方ができるよう指導しておく必要がある。

「ごみ拾い」という課題を持っていた児童Bは、堤小の取組のコーナーを視聴後「公園のごみ拾いをしてゴミのリサイクルを呼びかけゴミを減らしたい」(図14)という課題になった。その理由として、「ゴミ拾いだけでは…」ということを書いている。

このように、自校のこれまでの取組を参考にして主体的に活動内容を設定しようとする意識が感じられる。

以上のことから、本資料集を使用したことは、地域の施設などの様子をより深く理解し、相手の立場に立った課題を設定するために有効であったと考える。

ウ ビデオを分析、再構成し、一場面内容としたことで疑似インタビュー画面が作れたか

本マルチメディア資料集を使用中の児童の様子を見ると、始めはいろいろな質問項目をクリックして映像中心に眺めていたが、5分程経過すると興味のある内容について再度見直し、内容を聞き取ろうとするようになってきた。

一つのシーンを繰り返し再生したり、先へ先へと内容をたどっていくという使い方をしていた。その際、大切だと思った内容は何度も再生して、ワークシートにメモをしていた。

また、授業後に児童は、「どんな人が言ったのか伝わってくる」、「画面に顔と音が出て、意外によくわかった」、「表情でその人の気持ちが伝わった」、「クリックすれば話をしてくれるので楽しかった」、「知りたいところを早く詳しく見られるので良かった」、「質問形式でどういう話をしているかがわかってわかりやすかった」などの感想を挙げており、施設で働く方々の気持ちが伝わったと答えた児童は「伝わった」、「少し伝わった」を合わせると100%であった(図15)。

以上のように、児童は自分の興味のあることを主体的に質問し、施設で働く方々や施設を利用する方々の気持ちを感じ取ることができていた。このことから疑似インタビュー画面を作ることができたと考えられる。

しかし、幾つか前のシーンに戻したり、別の施設の質問項目を探したりするときに移動がしにくく児童から質問を受けることがあったので今後改良していく必要があると考える。

表3 自校のこれまでの取組を調べて(自由記述)

1 参考になったこと
・ ということを気を付ければよかった。
・ 知らないことがいろいろわかった。
・ 小さい子どもの様子がビデオでよくわかった。
・ お年寄りとの交流の様子がわかった。
・ ぼくの考えていることとつながった。 など
2 活動の目当て
・ 外にでるとき障害がある人がいい気持ちになるように。
・ その人だけでなく地域に広がるボランティア。
・ 人が喜ぶようにいろんな活動をする。
・ ビデオに出ていたこと以上の活動をしたい。
・ 公 のそうじをしている人にインタビューをする。
・ 落ち葉集めを見て、僕達ももっといろいろやりたいと思った。
・ 集めたゴミをリサイクルしていきたい。 など

課 題		課題をかえた理由
はじめ	公園でゴミ拾いをする。	ゴミ拾いだけでは捨て
		る人が気づかない。捨て
		ていても気づかせるため
今	公園でゴミ拾い、ゴミのリサイクルを呼びかけ、ゴミを減らそうにする。	に、ポスターを貼ったりリ
		サイクルしたりして捨ててい
		るって気づかせてあげた
		い。

図14 児童Bの課題の変容

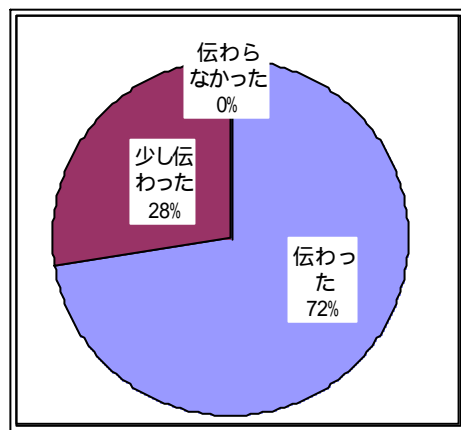


図15 施設で働く方の気持ち

研究のまとめと今後の課題

本研究では、学習課題の設定を支援するマルチメディア資料集の作成を目的に研究してきた。本教材の作成と活用において次のような成果があったと考える。

施設で働いたり施設を利用したりしている方々の取材ビデオを疑似インタビュー画面で見たことは、登場する方の言葉や表情などから現場の方の思いや願いが伝わりやすく、相手の立場に立った課題の設定に有効であったと考えられる。

自校のこれまでの取組を調べることができるようにしたことは、自分たちがどのような活動をしていくのか活動のイメージがとらえやすくなり、これまでの活動を生かして主体的に活動内容を設定するのに有効であったと考えられる。

一場面が一内容になるようビデオを分析、再構成し、各内容に対応した質問項目を設定して Web ページ形式で見ることができるようにしたことは、児童の意欲的な資料の利用の様子や施設で働く方々の気持ちが伝わったという感想から、疑似インタビュー状態を作り出すことに有効であったと考えられる。

一方、実践を通して次のような課題が明らかになった。

じっくりと資料を見られない児童がいた。コンピュータが二人に一台、児童数が多い（5 学級）という環境を考慮し、じっくり見ることができるよう調べる方法や場を分散させるなど使用方法を検討していく必要がある。

児童の多様な課題を設定する支援ができるようボランティアのジャンルをカバーした資料集へと充実させていくとともに、それと並行してリンク集のコーナーで適切な Web ページを選択しておく必要がある。

シーンの間を行き来するときに児童の戸惑いが見られたので、目当てのシーンに戻りやすくするよう、フレームを設定するなどの方法を検討していく必要があると考える。

< 参考・引用文献 >

- ・ 研究報告書第 203 集 群馬県総合教育センター
- ・ 群馬町役場 Web ページ
- ・ 「ボランティア みんな知ってる？」 全国ボランティア活動振興センター
- ・ 「みつけよう！わたしのボランティア 踏み出そう！はじめての一步」 群馬県県民生活課

< 商標について >

- ・ Microsoft Internet Explorer、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標又は商標です。